

やや早生で炭疽病・輪斑病複合抵抗性の 緑茶用新品種「さえあかり」

わが国茶園面積の75%以上を占める「やぶきた」は、チャの重要病害である炭疽病と輪斑病に罹病性で、また、高品質品種として急速に普及している「さえみどり」も輪斑病に罹病性であることから、高品質で炭疽病と輪斑病に抵抗性を有する品種の開発が望まれていました。

(独)農研機構野菜茶業研究所では、炭疽病、輪斑病への抵抗性を有し、高品質で多収の品種を育成しましたので、その特性の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「さえあかり」(旧系統名 枕崎 30 号)は、輪斑病抵抗性で樹勢が強い「Z 1」を種子親、炭疽病中度抵抗性で製茶品質に優れる「さえみどり」を花粉親として、1989年に交配されたF₁実生群の中から選抜された品種です。
2. 「さえあかり」の葉への付傷接種検定の結果から炭疽病抵抗性は「やや強」、輪斑病抵抗性は「強」と判定されます。また、圃場における炭疽病の自然発生程度は極めて少なく、抵抗性は「強」、もち病抵抗性は「やや弱」でした。
3. 「さえあかり」の一番茶の萌芽期と摘採期は「さえみどり」と「やぶきた」の間に入るやや早生で、樹勢が強く樹姿はやや開張型です。
4. 「さえあかり」の生葉収量はすべての茶期で「やぶきた」や「さえみどり」より多く、一番茶の品質は「さえみどり」と同等で「やぶきた」より優れます。製茶品質の特長はとして、外観は細よれ、鮮緑で、「さえみどり」様の品種香とうま味があります。また、二番茶と三番茶の製茶品質は、いずれも「やぶきた」や「さえみどり」より優れます。
5. 「さえあかり」の裂傷型凍害抵抗性は「やぶきた」と同程度の「中」、赤枯れ抵抗性は「さえみどり」よりやや強く、「やぶきた」より劣ります。



「さえあかり」の一番茶園相

表1 「さえあかり」の栽培加工特性(枕崎)

品種名	早晩性	萌芽期 (月日)	摘採期 (月日)	生葉収量(kg/10a)		製茶品質		炭疽病 抵抗性	輪斑病 抵抗性	赤枯れ 抵抗性	裂傷型凍 害抵抗性
				一番茶	二番茶	一番茶	二番茶				
さえあかり	やや早生	3/17	4/14	384	406	29.3	27.7	やや強	強	中	中
さえみどり	早生	3/12	4/10	226	256	29.8	24.8	中	弱	やや弱	—
やぶきた	中生	3/22	4/18	252	176	25.7	21.5	弱	弱	やや強	中

☆ 活用面での留意点

1. 「さえあかり」は静岡以南の温暖地から暖地での栽培に適した品種です。高品質・多収であり、「やぶきた」の有力な改植候補品種です。
2. 炭疽病・輪斑病防除は基本的に不要ですが、虫害防除は必須です。
3. 詳しいことは、(独)農研機構野菜茶業研究所枕崎茶業研究拠点(TEL : 0993-76-2126)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘)